

緒方議員（自民議連）

令和5年2月16日
教育長答弁実録
（教育委員会）

（問）若者のメディア・リテラシーにおける課題と対策について

将来を担う若者のメディア・リテラシーにおける課題についてどう捉え、どう対応しようとしているのか、教育長の所見を伺う。

また、親世代にとっても、子どもたちのSNSの適切な活用方法など、新たな課題が生じていると思うが、メディア・リテラシーに係る家庭での取組の必要性について、併せて教育長の所見を伺う。

（答）

社会の情報化が進む中、メディアを主体的に読み解き、メディアの特性を理解する能力などのメディア・リテラシーが一層重要となっていることから、各学校におきましては授業や様々な場面で指導するとともに、家庭への働きかけも進めていくことが必要であると考えております。

例えば、中学校「技術・家庭科」の技術分野では、インターネット等のルールやマナーの遵守、危険の回避、人権侵害の防止など、情報を適切に活用できるよう指導しているところでございます。

高等学校「情報」では、情報社会において個人の果たす責任や役割、情報モラルなどの背景を科学的に捉え、考察する力を身に付けられるよう指導しているところでございます。

また、児童生徒が被害者にも加害者にもならないようにするため、多くの小・中・高等学校では、非行防止教室などにおいて、警察や携帯電話会社などの外部講師を招き、違法投稿や自画撮り被害など、SNSの適切な活用についての講話を行い、全国的に報道された事例に触れながら、具体的に指導しているところでございます。

家庭への働きかけといたしましては、入学式やPTA総会などの様々な機会を捉え、一人1台端末の利用を含めたインターネット問題に関する啓発を行っております。

特に県内全ての中学校におきましては、入学予定者説明会などの中で、警察職員が、犯罪に当たる行為や軽率な行動が招く影響等を例示するなどしながら、インターネットの適切な利用などについて、児童と共に保護者にも理解を求め、家庭の協力を呼びかけているところでございます。

県教育委員会といたしましては、児童生徒が、新たに生じているSNSの

活用などに関する課題に適切に対応できるようにするとともに、自律的なデジタルの利活用を通じて、社会に積極的に関与し参加することができるよう、教員研修や家庭への働きかけを充実させ、各学校における取組を支援してまいります。